

英語 解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	伝記・科学系 約900語	「毒草を調査し人々の命を救ったアンナ・ピアース」についての長文問題(同意表現選択・内容一致・同意語選択・主題選択・英和訳・自由英作文)	選択・記述	★★☆☆
2	読解	—	「植民地の英語」「熱波への備え」「デジャブの原因」についての長文問題(文補充)	選択	★★☆☆
3	読解	社会系 約550語	「人口減少に関する統計」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆
4	会話文	約750語	「ブッチャード・ガーデンを訪問した女子たち」についての対話文(同意表現選択・同意語選択・空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆

23年度から大きな変化はない。難度は標準的だが、60分で2,000語を超える英文を読まなくてはならないため簡単ではない。さらに大問3や4でグラフや図などを読み取る力も必要となるので、単なる長文問題とは考えない方がよい。対策には共

通テスト対策問題集から始めるのが有効。その際、グラフの読み取りなどの多い問題を意識するとよい。実力がついてきたら本学の過去問で英文のレベルに慣れ、時間内に解答できるように工夫する。特に大問2の文補充は練習が必須である。

数学 解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★☆☆☆☆ 易 前年との難易度比較 易化 時間に対する分量 適量

小問	分野	内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式	II 2直線のなす角	記述	★★☆☆
	複素数平面	C 複素数を含む2次方程式	記述	★★☆☆
2	図形の性質、数学と人間の活動	A 内心の座標、1次不定方程式	記述	★★☆☆
3	確率	A サイコロの目が一致または連続する確率	記述	★★☆☆
4	微分法の実用	III 極値、不定方程式、累乗数の大小比較	記述	★★☆☆

24年度は非常に易化し、参考書で見かける問題が多く出題された。例年は難度は高くないものの、60分で記述式4題のためじっくり考える時間はない。典型問題は瞬時に解法が浮かぶようにしておくことが重要。19~22年度までは4年連続で極限が出題されていたので、対策はしっかりしておきたい。「場合の数・確率」と「数学と人間の

活動(整数)」の出題頻度が高く、工夫が必要な定積分の計算も出題されている。これらの分野に関してはハイレベルな演習にも取り組むべきだろう。数学Ⅲ・Cからの出題が半数を超える年もあるので意識しておきたい。また、解答欄があまり広くないため、簡潔に記述する練習をしておくとうい。

化学 解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合 15問	分離法、同位体、分子の極性、イオン半径、同素体、気体の発生と捕集法、気体の溶解度、電気伝導性、酸化還元、蒸気圧曲線、ナトリウムの性質、熱化学方程式、反応速度と化学平衡、金属イオン、付加反応	選択	★★☆☆
2	有機	合成高分子化合物の構造と性質(ナイロン66など)	空所補充・選択	★★☆☆
3	理論	凝固点降下、熱化学方程式	空所補充・選択・記述	★★☆☆
4	有機	芳香族化合物の構造決定	記述	★★☆☆

大問4題(マーク形式2題・記述形式2題)。マークは様々な分野からなる選択問題で構成されていた。例年同様、「すべて選べ」という問題が多く、判断スピードを要した。記述は理論と有機からの出題で、マークより解きやすい問題もあった。これま

で頻出だった電気化学や天然高分子化合物の出題がなかった。例年、グラフ問題、有機の構造決定が頻出。有機の構造式は問題に示された例に注意して答えよう。マークと記述の混合形式が続いているので、過去問を繰り返し解いて慣れておくとうい。

生物 解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 やや易化 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度	
1	生物と遺伝子、生物の進化と系統、生命現象と物質	生物基礎、生命現象と物質	生命の起源、酵素反応、細胞骨格、呼吸、マイクロメーター	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物	遺伝情報の発現	選択・記述	★★☆☆
3	多様性と生態系、生態と環境	生物基礎、生物	生態系、窒素の循環	選択・記述	★★☆☆
4	生物の環境応答	生物	動物の行動	選択	★★☆☆

24年度は23年度と同様に大問4題構成。大問1・4はマーク式、大問2・3はマーク式と記述式の併用式。大問数は近年3~5題構成が多いが、年度によってバラツキがある。23年度と比較して計算問題は減少したが、頻出の考察問題が増加した。計算問題と

ともに考察問題の練習は必須である。特に考察問題では、選択肢に分かりにくい表現が使われることが多く、順番に正しく読んでいかないと引っかかることがあるので注意しておくこと。また大問3では、23年度に出題されていなかった論述問題が復活した。

物理 解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★☆☆☆☆ 標準 前年との難易度比較 やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	浮きの単振動、ばねを介した2物体の運動(運動量保存則)、斜面上での立方体のつり合い	選択・記述	★★☆☆
2	波動、原子	波の式、ヤングの実験、光電効果	記述・描図	★★☆☆
3	電磁気	コンデンサー内に導体箱を入れた場合の電場と電位、磁場領域を通過するコイルの電磁誘導、RC回路	記述・描図	★★☆☆

大問3題構成。例年、力学と電磁気から各1題、残り1題は波動、熱、原子のうちいずれか1分野からの出題だが、24年度は波動、原子の2分野からの出題だった。大問1は小問集合、その他は電磁気、波動、原子からの出題だった。各大問は基本~標準レベルの問題がほとんどなので、入試標準レベルの問題集をしっかりと解き込んでおけば、苦戦することはないだろう。一方、理由

説明問題、解答過程の記述、グラフの描図などが要求されるため、過去問を通じてこの手の問題の対策を怠ってはならない。24年度は、過年度と比べ問題数が増加し、全ての問題に取り組むことが難しくなると考えられる。25年度もこの問題量が続くことを想定し、時間のかかる問題からまず解答するなど、過去問演習を通じてシミュレーションを行っておくとういだろう。

小論文

年度/内容	字数/時間
2024 ①AIと医師が協働している時代と仮定する。AIと主治医が、あなたに別々の治療を提案してきた時、どう対応するかを述べる。	800字 60分 ※小論文と適性試験を合わせて60分
2023 ①三浦綾子著「泥流地帯」の抜粋文を読み、設問に答える。内容は「北海道で火災が起こり農業を続けることが難しくなった家族」の話。①下線部について思ったこと②下線部について思ったこと	①400字 ②400字 60分 ※小論文と適性試験を合わせて60分
2022 ①日本におけるフードロスの対策としてどのようなことが考えられるか。また、あなたが明日から実践できることを具体的に述べる。	800字 60分 ※小論文と適性試験を合わせて60分
2021 ①臓器がんを患っている父親が、どうせ死ぬのならば治療をしたくないと言っている。あなたは賛成か反対か。その理由とともに父親に対する対応で最も重要なことを述べる。	800字 60分

②は、メディカルラボの生徒からの情報を基に作成。

面接

形式	所要時間	面接の進行と質問内容
個人面接	10分	※当日事前アンケートあり(併願校とその可否)
面接会場の配置		<input type="checkbox"/> 医師志望理由 <input type="checkbox"/> 本学志望理由。本学でないとならない理由。本学の魅力は <input type="checkbox"/> 20年後はどうしているか <input type="checkbox"/> 本学の建学の精神や理念は知っているか、どう思うか <input type="checkbox"/> 育児や家事と医師を両立できるか <input type="checkbox"/> あなたが考える良い医師と悪い医師は。なぜ悪い医師がいるか <input type="checkbox"/> 最近の医療ニュース <input type="checkbox"/> 医学生は勉学が忙しいが、何のバイトなら医学生にも役に立つと思うか <input type="checkbox"/> 医師になったら指導医が厳しいことがあるが、どう対処するか <input type="checkbox"/> 出身校の特徴